

粘度可変型流動食の有用性評価

液体の流動食をチューブなど経由して胃に流動食を入れる場合、胃食道逆流が原因として誤嚥などがみられることがあります。また消化器症状としての下痢は頻度の高い合併症でもあります。これらの合併症は、患者さんのQOL(生命・生活の質)を落とすことになり、十分な栄養効果も得られません。最近では、液体より粘度の高い半固形栄養剤による胃食道逆流や下痢の抑制効果が報告されています。しかし、液体に比べて高粘度のため、多くは内視鏡的胃瘻造設術(PEG)施行の患者さんに限定して用いられています。

今回、液体から胃で粘度の上がる流動食マーマッドが市販されました。これは患者さんの下痢の軽減、胃食道逆流を予防する可能性があります。またPEGから用いる場合には、液状の経腸栄養剤に比べてPEG周囲からの漏れが少ないと考えられます。本研究によって、胃で粘度や形状が変化する流動食の有用性を確認することができます。経鼻チューブやPEGで栄養摂取を行う患者さんの、新たな栄養摂取の投与方法になる可能性が見込まれます。

流動食の使用前後での身体所見、血液検査、便チェック、口腔内の糖検出を実施します。

期間は、基本的に患者さんの症状改善がみられる2週間程度です。ただし効果があれば、継続して使用する場合があります。

患者さんの通常診療範囲の医療行為と検査データを使用しますので、患者さんに不利益になるようなことはありません。試験終了後は、通常どおりの栄養管理となります。

本評価試験に用いられる製品は、食品として保証されているものです。

本試験は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。